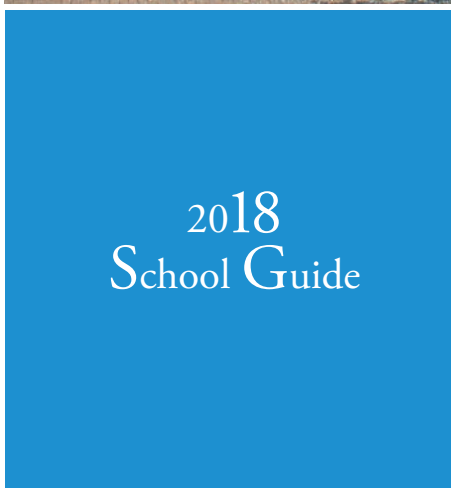




情報学群 知識情報・図書館学類



*College of Knowledge and Library Sciences
School of Informatics*

知識の時代

この学類案内を見て興味をもったみなさんが次に取る行動は、多くの場合「Webで調べる」になるはずです。

では「Webで調べる」とはどういう行為でしょう。それは大学が発信する情報、受験産業による分析、大学生や卒業生による口コミなどを、みなさんの必要や興味に応じて探索し、選別して自らの知識を補うということです。

インターネットとWebは社会を大きく変化させてきました。その到達点として、私たちはあらゆる知識や情報をWebから入手できる時代を生きています。しかし、そこには大きな困難があります。自分が欲しい情報が見つからない、もっと良い情報が他にあるかもしれないと思って不安になるなどは誰もが経験したことでしょう。

一方、大きな可能性も広がっています。誰もが膨大な知識にアクセスして、新たな知を生み出すことができます。ひとりひとりの小さな知識を集めて、新たな価値を生み出すこともできるでしょう。

知識情報・図書館学類は「知識の時代」を生きるすべての人に寄り添って社会を支え、変革していく、知識の共有と活用 of 専門家を養成します。私たちを足がかりに、知識のスペシャリストとして未来を担ってみませんか。



知識情報・図書館学類長

歳森 敦

筑波大学全景



春日エリアの施設



目次	
学ぶ	2～6
研究室訪問	7
教員紹介	8
入試	9
進路	10～11
学生生活Q&A	12～13
3年次編入	14～15

目次	
学ぶ	2～6
研究室訪問	7
教員紹介	8
入試	9
進路	10～11
学生生活Q&A	12～13
3年次編入	14～15

筑波大学
天王台
エリア

筑波大学
春日
エリア

春日
グラウンド

北大通り



北通用口



テニス
コート



春日講堂

講義棟
7A、7B



研究棟
7D



第4体育館

高細精医療
イノベーション棟

春日弓道場

筑波大学
春日エリア前
バス停

東通用口



駐車場



食堂



駐車場

学ぶ

■ 知識情報・図書館学類とは？

みなさんは何かについて知りたいと思ったとき、どうしていますか？まわりにある情報の多さに困惑していませんか？知識情報・図書館学類では、情報化社会に生きる私たちが知識や情報を有効に活用するためのさまざまな仕組みを扱います。そこには、社会に息づく図書館や文書館もあれば、広大なインターネットの世界、膨大な情報やデータの利用と分析、未来への知識や情報の伝達などが含まれています。

知識や情報を有効に活用するためには、その性質を的確にとらえ、それらを扱うシステムを設計・構築する必要があります。システムを創るためには、制度や文化、運営について考えなければなりません。知識情報・図書館学類では、これらの課題について「知識科学」、「知識情報システム」、「情報資源経営」の三つの主専攻が協力して、知識や情報と社会をつなぐ人材を育成します。

■ カリキュラム

知識情報・図書館学類のカリキュラムは図1のようになっています。1年次には、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システム、情報社会と法制度などについての概論や、プログラミング演習、統計などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。2年次には、1年次に得た知識や技術

をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次になると三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次には、研究室に所属して卒業研究を行い、卒業論文を執筆します。卒業時には学士（図書館情報学）があたえられます。資格取得をめざす人のために、司書教諭、司書、教員免許、テクニカル・コミュニケーターの科目も開講しています。

学修の達成度はGPA（Grade Point Average）によって容易に把握できるようになっています。GPAとは、成績を点数化したもので、修学指導や大学院への推薦などに使われています。

■ 専門教育

知識情報・図書館学類の専門教育の内容は、三つの主専攻に集約されています。各主専攻の特徴は、表1のようになっています。知識科学主専攻は「人間」、知識情報システム主専攻は「情報技術」、情報資源経営主専攻は「社会」をキーワードに、幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開しています。

図1 知識情報・図書館学類のカリキュラム体系

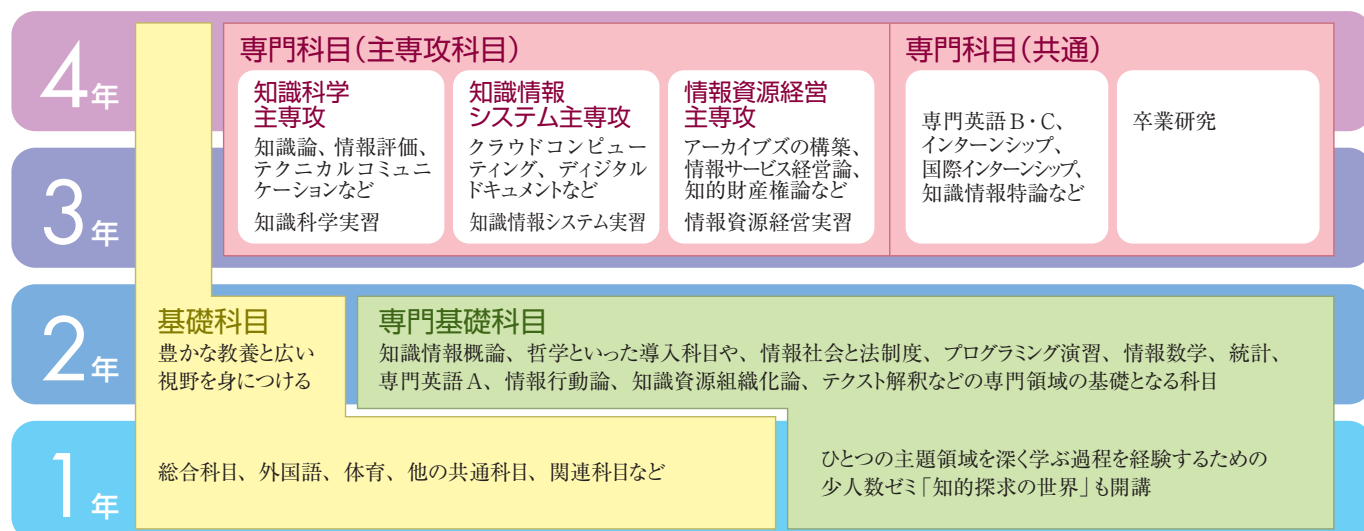


表1 各主専攻の特徴

	知識科学主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻
ポイントは?	人 間	情報技術	社 会
何を学ぶか?	知識の本質、知識と情報行動、知識獲得のあり方と方法、知識の抽出・表現・探索、思考法に関する理論と応用	知識と情報の共有、データベース、情報検索、デジタルライブラリなどの知識情報技術に関する理論と応用	知識共有に関する社会制度、メディアと図書館の文化、知識情報資源の構築とサービスのマネージメントに関する理論と応用

図2 知識情報・図書館学類の科目一覧

学群共通科目		専門科目			
<p>情報社会と法制度</p> <p>知的財産概論</p> <p>体験型システム開発</p> <p>ビジネスシステムデザイン</p> <p>グローバルチャレンジ演習</p>		知識科学主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻	卒業研究
<p>基礎科目</p> <p>☆第1外国語（英語）</p> <p>☆総合科目I （フレッシュマン・セミナー、情報リテラシ実習）</p> <p>☆総合科目II</p> <p>☆総合科目III</p> <p>☆体育</p> <p>☆第2外国語</p>		知識科学主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻	☆主専攻実習
<p>専門基礎科目</p> <p>【知識情報学への導入】</p> <p>☆知識情報概論</p> <p>☆哲学 情報システム概説 図書館概論</p> <p>【情報リテラシ】</p> <p>☆情報基礎</p> <p>☆情報基礎実習</p> <p>【プログラミング基礎】</p> <p>☆プログラミング演習 I, II</p> <p>【数学】</p> <p>☆情報数学 基礎数学A, B</p> <p>【統計とその応用】</p> <p>☆統計</p>		知識科学主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻	
<p>【知識情報演習】</p> <p>☆知識情報演習 I, II, III</p> <p>【統計とその応用】</p> <p>量的調査法 多変量解析</p> <p>【専門英語への導入】</p> <p>☆専門英語 A</p> <p>【知識と人間】</p> <p>情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論</p> <p>【知識とシステム】</p> <p>知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステムとネットワーク 自然言語解析基礎</p> <p>【知識と社会】</p> <p>メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論</p> <p>【メディアの理解】</p> <p>テキスト解釈</p> <p>【少人数セミナー】</p> <p>知的探求の世界 I, II</p>		知識情報システム主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻	
<p>【知識情報システムの実際】</p> <p>デジタルライブラリ、デジタルドキュメント、アーカイブズの利用 デジタルキュレーション、情報サービスシステム</p> <p>【知識情報システムの実装】</p> <p>マルチメディアシステム、情報検索システム、 Web プログラミング、メディアアート</p> <p>【知識情報システムの設計】</p> <p>データベース技術、データ表現と処理 情報デザインとインタフェース、ヒューマンインタフェース</p> <p>【知識情報の組織化】</p> <p>知識資源の記述、知識資源の分析</p> <p>【知識情報システムの原理】</p> <p>データ構造とアルゴリズム、テキスト処理、マークアップ言語 クラウドコンピューティング、ソフトウェア工学</p>		知識情報システム主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻	
<p>【知識情報環境の構築】</p> <p>図書館論、学術情報基盤論、経営情報システム論</p> <p>【知識情報サービスの経営】</p> <p>情報サービス経営論、パブリックガバナンス</p> <p>【知識情報サービスの構成】</p> <p>情報サービス構成論、コレクションとアクセス Comparative Study on Library and Information Services</p> <p>【知識情報の社会化】</p> <p>教育文化政策、学校図書館論、メディア教育の実践と評価</p> <p>【知識情報の規範】</p> <p>情報法、知的財産権論 A</p> <p>【メディア文化】</p> <p>映像メディア論</p> <p>【図書館と書物の文化】</p> <p>図書館文化史論、中国図書館学、日本図書館学、アーカイブズの構築</p>		情報資源経営主専攻	情報資源経営主専攻	情報資源経営主専攻	
<p>【知識情報特論】</p> <p>知識情報特論 I, II, III, IV</p> <p>【研究と英語】</p> <p>専門英語 B, C</p> <p>【司書教諭科目】</p> <p>学校図書館メディアの構成、学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性、情報メディアの活用</p> <p>【インターンシップ】</p> <p>インターンシップ、国際インターンシップ</p>		学類共通	学類共通	学類共通	

☆は必修科目

■ 特色ある科目

1年次には、大学生活への適応を支援する「フレッシュマン・セミナー」に引き続き、文章を読む、まとめる、議論する、発表するなどのコミュニケーション基礎力を養う「情報リテラシ実習」を必修科目としています。また、文理融合型のカリキュラムによって総合的な能力を育てるとともに、2年次と3年次には必修の演習（「知識情報演習」、「知識科学実習」、「知識情報システム実習」、「情報資源経営実習」）を開設し、知識と技術の確実な定着をめざします。さらに、4年間を通して英語力を維持向上させるために英語による授業（専門科目）を開講したり、実社会での専門的な職業体験ができるよう、図書館や企業における「インターンシップ」を開講しています。



さらに、同窓会である図書館情報学橘会の支援を受け、知識情報学に関する国際的な知見を深めるための短期海外研修事業として「図書館情報学海外研修助成」を実施しています。この事業では、自分が作成した海外での研修プランに対して、渡航費や滞在費などが助成されます。

■ 国際インターンシップと海外研修助成

筑波大学は知識情報学の国際的研究教育拠点であり、世界的な交流が行われています。その交流関係を活かして、平成21年度よりカナダ、アメリカ、中国、韓国における様々な図書館や情報センターと連携した「国際インターンシップ」を開講しています。受講者は研修先に10日間ほど滞在し、相手国の図書館や情報センターの業務を見学・実習することで、国際感覚やコミュニケーション能力を高め、国際的な視野を養います。これまでの研修先と受講者数は表2を参照してください。また、ピッツバーグ大学や釜山大学など、海外の学生が筑波大学を訪問した際には、講義や見学をとおして、日本の図書館や関連機関について学ぶ機会も提供しています。

■ 組み込み技術キャンパスOJT

先端ITベンチャー企業から派遣された技術者の指導をキャンパス内で受けながら、実践的な技術が習得できます。受講生がIPAの未踏IT人材発掘・育成事業に毎年採択されるなど大きな成果を挙げています。

■ enPiT

情報学群は情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材育成のために、産学協働で課題解決型学習（PBL）の実践的教育を推進する全国的な拠点に採択されました。平成29年度から本格的に授業として開講されます。

表2 国際インターンシップ受講者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
カナダ（プリティッシュコロンビア大学、トロント日本文化センター）	1	2	1	1	—	—
アメリカ（ハワイ大学、ミシガン大学、ピッツバーグ大学）	1	—	2	1	1	1
中国（上海図書館）	—	5	—	2	—	2
韓国（釜山大学）	3	6	1	1	2	1

表3 図書館情報学海外研修助成を受けたテーマの例

公共図書館における資料選択のアウトソーシング（アメリカ ハワイ州）
地域の特徴を活かした公共図書館のプログラム（ニュージーランド）
北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス（デンマーク コペンハーゲン）
日本のNGOによる開発途上国の図書館への支援（ラオス）
カンボジアの大学図書館と国会図書館（カンボジア プノンペン）
欧州諸国と日本の図書館の比較（イギリス、フランス、オランダ、ベルギー、デンマーク）

■春日ラーニングコモンズ (KLC)

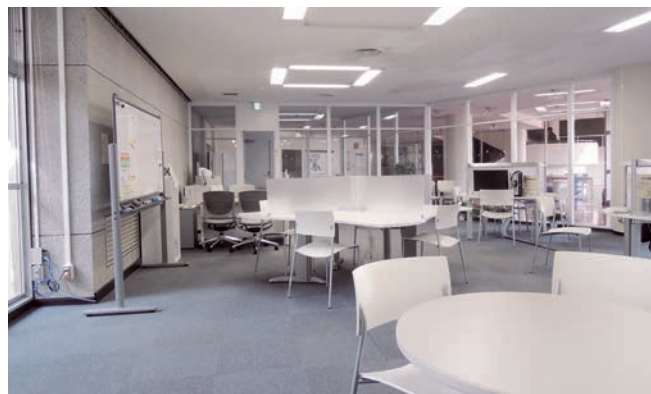
ラーニングコモンズとは、大学図書館内に形成された「学習するための共有スペース」です。KLC (Kasuga Learning Commons) は図書館情報学図書館のなかにあります、だれでも利用できます。

KLCにはICT環境として、カラープリンタ、大型ディスプレイ、ホワイトボード、ミーティングテーブルなどが設置されています。KLCには上級生チューターが質問を受け付ける専用カウンターがあり、平日の15:00～19:00にはチューターが講義や履修に関する質問を受け付けています。

1年のときにKLCで上級生からレポートの書き方や、パソコンをネットワークに接続する方法を教わった学生が、今度はチューターとしてみなさんの入学を心待ちにしています。



上級生チューターが質問を受け付けるカウンター



KLC

撮影 池田光雪 (知識情報・図書館学類卒)

■司書資格と司書教諭資格

知識情報・図書館学類では、司書と司書教諭の資格が取得できます。司書や司書教諭は他の大学でも取得できますし、場合によっては通信教育や司書講習でも取得できます。しかし、同じ資格でも、知識情報・図書館学類は以下の点が異なります。

- (1) 資格のための科目ではなく、知識情報学の専門科目として自然に位置づけられています。
- (2) 現在の図書館は情報センターとしても機能しています。司書資格の多くは文系学科で取得しますが、本学類では理工系、たとえば情報システムにも明るい学生を育てています。
- (3) 図書館での現場実習が「インターンシップ」「国際インターンシップ」として組み込まれています。

単なる資格として取得するか、実力の伴った資格にするか、それはみなさん次第です。

■テクニカルコミュニケーター専門課程

テクニカルコミュニケーターとは、仕事としてテクニカルコミュニケーション（機器や各種サービスに関して、利用者が求める情報を、正確かつわかりやすく表現するとともに、効果的に提供すること）に携わる人々のことをいいます。テクニカルコミュニケーターには、情報処理能力だけではなく、ライティングや検索力、企画力、法的知識など、幅広い能力が求められます。

2012年度より、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 (JTCA: テクニカルコミュニケーションの専門家団体) が、テクニカルコミュニケーター専門課程の認定を開始しました。これは、JTCAが定めた専門分野に関する科目から成る課程を認定するもので、知識情報・図書館学類はこの認定を取得しました。知識情報・図書館学類の定められた科目を履修し、JTCAに申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程の修了認定が受けられます。

■卒業研究はどんなことをやるの？

4年次の卒業研究では、知識や情報に関する専門性に加えて、社会に出て役立つ基礎的なスキルを修得します。はじめに関心のある研究テーマを見つけ、その研究テーマに関する文献を読み、新しいシステムをつくったり、調査を行ったりすることを通して、さまざまな発見をします。その成果を、卒業研究論文としてまとめます。このような過程や研究成果をまとめるなかで、知識や情報に関する専門性が深められます。

卒業研究の枠組、経過、最終的な成果などを報告する発表会は3回あり（着手発表会、中間発表会、最終

発表会）、限られた時間のなかで効果的なプレゼンテーションを工夫し、質疑応答も経験します。このような発表会を通して、社会で役立つプレゼンテーション能力、論理的思考力、文章力などが鍛えられます。卒業論文執筆の過程では、論理的に説明する力や文章力が培われます。

これまでの卒業研究の全タイトルと抄録は学類ウェブページから見られます。卒業研究論文はpdfファイルで保存され、図書館情報学図書館で全文が閲覧できます。

表4 卒業研究題目の例

知識科学主専攻
日本におけるマイクロライブラリーの実態調査
携帯情報端末が購買行動に与える影響
科学コミュニケーション活動の参加者の意識
Q&Aサイトの質問と図書館におけるレファレンス質問との差異
Twitterユーザの投稿場所を考慮した属性確定
留学生の異文化適応について —他者から見た母国・セルフイメージに着目して—
知識情報システム主専攻
Computational Fabrication and Stabilization Method for Cartesian Diver
EPUB小説データからの表紙の自動生成
絵画展示におけるAR技術を用いた解説システム
紙媒体の命令オブジェクトを用いたタンジブルなプログラミング環境
協調学習を用いた日本の文化に触れるシステム「妖怪を追いかけて」の構築
トピックモデルによる単語の分散表現手法に関する研究
情報資源経営主専攻
漢籍古典目録における著者名記述をめぐる問題点
国際バカロレアDP認定校の学校図書館に求められる機能
津軽の俳諧研究 —芭蕉二百回忌を中心に—
高齢者によるまちづくり活動と公共図書館の関わり —鹿児島県鹿屋市柳谷集落を中心に—
表示媒体が誤りを探す読みに与える影響
多摩地域における幕末維新期の情報網と社会情勢への関心 —日記史料からみる—



知識科学主専攻の卒業研究最終発表会



知識情報システム主専攻の卒業研究最終発表会



情報資源経営主専攻の卒業研究最終発表会

研究室訪問



照山 絢子 助教（知識科学主専攻）

レポートを書くために調べ物をする、娯楽のために本や漫画を読む、うれしかったことや悲しかったことを友達にメールする…。多くの人は情報を獲得したり共有したりするためのコミュニケーションを、意識せずにとっています。しかし、そういったことに困難を感じる人もいます。たとえば、視覚障害で文字を読むのに特別な機材が必要な人や、自閉症で人とうまく気持ちを共有できない人、日本語が母語ではないため生活に必要な情報を得られない人等。また、障害や言葉の壁がなくとも、地域や世代、育った環境の違いなどによってコミュニケーションのスタイルはさまざまです。人がどんなふうに情報をやりとりし、他人や社会とつながっているのか、またそれについてどんなことを思い、どんな問題を抱えているのかを明らかにすることは、より良い社会の実現のために必要不可欠なことです。

照山研究室では、学生がそれぞれ自分で決めた場所や地域に出かけていき、そこの人々に時間をかけて寄り添い話を聞くことで、その人々の経験にせまる「フィールドワーク」という調査をおこなっています。学習障害者のグループに出かけていって彼らの読書経験について調査をした学生、商店街の活性化に奮闘する地域で住民たちと時間を過ごした学生、不登校の子どもたちが通う適応指導教室の先生たちの話を聞きにいらしている学生など、さまざまな卒業研究に取り組んでいる学生がいます。現場に赴き、そこで暮らす人々の生の声に耳を傾けることで、そこにどんなコミュニケーションが生じていてどんな課題が浮かび上がっているのかを考えていきます。一人で調査をするというのは最初は不安かもしれませんが、ゼミ合宿で聞き取り調査をする等、練習の場も多く設けています。フットワークの軽さと知的好奇心があれば、かけがえのない出会いと学びの経験が得られるものと思います。



鈴木 伸崇 准教授（知識情報システム主専攻）

当研究室は、主にWeb上のデータを対象に、データの構造や繋がりに着目して研究を進めています。では、この「データの構造や繋がり」とは何でしょうか。Web上の代表的なデータとしてHTMLやXMLがあります。これらはタグを使ってデータを記述します。タグの入れ子関係に着目すると、このようなデータはツリー構造として表せます。より広い視点で捉えて、個々のWebページを1つの実体（ノード）とみなし、Webページ間に張られているリンクをエッジと考えると、Web自体を1つのグラフとして表せます。ほかにもDBpediaなど、グラフとして表せるデータは数多く存在します。このようなデータのもつ構造はそれ自体が簡潔で美しく、かつ膨大なデータを効率的に扱う上での重要な手がかりとなります。当研究室では、Web上のデータがもつ構造や繋がりに着目し、構造の類似性に着目したデータの検索や分類、大規模グラフデータからの概形抽出、大規模データ上で経路探索を効率よく行うためのアルゴリズムなどについて研究しています。

当研究室は、できるだけ自由な雰囲気の中で研究を進めていけるように心がけています。しかし、自由だからといって研究を怠ってしまうような学生はおらず、自分のペースを保ちながらも真摯かつ着実に研究を進めています。若い人の集中力には目を見張るものがあり、私の予想を大きく超える成果が得られることも珍しくありません。研究活動を通じて、微力ながら若い人たちの可能性を伸ばすお手伝いができればと考えています。

研究が面白いのは、未解決の問題に対して自分で解を見つけないと困ります。卒業研究では未解決の研究テーマに取り組みますので、その過程では多くの未知の問題に遭遇します。その問題の解決を通じて培った問題解決能力は、実社会でも必ず役に立つものと思います。意欲ある方々のご参加を心からお待ちしております。



呑海 沙織 教授（情報資源経営主専攻）

呑海研究室では、図書館を中心とする知識情報基盤に関して研究を行っています。知識情報基盤とは、あらゆる学習・教育・研究に必要な知識や情報を蓄積・共有・活用することによって、知識情報社会を支える社会的基盤です。長い歴史をもつ図書館について、歴史的経緯および地理的経緯から、知識情報基盤の社会的役割を探ります。

現在は、溝上研究室と連携しながら、「超高齢社会と図書館」をテーマとして研究しています。日本は、高齢化先進国であるにもかかわらず、高齢者を対象とした図書館サービスも進んでいるとはいえないのが現状です。そこで呑海研究室では、超高齢社会における図書館モデルを構築すべく、「認知症にやさしい図書館」や「コミュニティ主導型図書館サービス」などさまざまなアプローチからプロジェクトを展開しています。

最近の卒業研究のテーマとしては、「公共図書館における人型ロボットによる高齢者サービス」「公共図書館の高齢者サービスにおける自分史づくり支援の意義と方法」など「超高齢社会と図書館」に関するもののほか、「移動図書館の役割の再考」や「児童図書館研究会における自動図書館員養成の変遷」などの図書館文化史に関するもの、「高等教育機関における学習支援空間のゾーニング」「英国の大学図書館における学習支援空間：JISCのプロジェクトを中心に」などの大学図書館に関するものなど多岐にわたっています。

卒業研究は、これまで学んだものを基盤として積み上げ、卒業論文という形で表出するという意味で、勉学の集大成であるといえます。能動的に取り組めば取り組むほど、思考力や表現力、コミュニケーション力が培われます。論文執筆に終始するのではなく、卒業研究にとりくむ過程でぜひ多くの力を身につけてください。



溝上教授とSporting Memories groupのみなさんと

教員紹介

知識科学主専攻

干 海湧

- 知識情報学
- インタラクティブ情報検索

後藤 嘉宏

- メディア社会学
- 社会思想史
- マス・コミュニケーション論

上保 秀夫

- インタラクティブ情報検索
- コンテキスト
- レファレンスサイエンス

照山 絢子

- 文化人類学
- 医療人類学
- コミュニケーション学

中山 伸一

- 情報化学
- 感情予測
- 情報知識化

真榮城 哲也

- 生命現象の解明
- さまざまなモノの関係性
- 専門知識の利用

叶 少瑜

- 個人特性と社会的ネットワーク
- 対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響

芳鐘 冬樹

- 研究者の生産性
- 研究協力ネットワーク
- 計量書誌学

大澤 文人

- 教育におけるマルチメディアの活用
- 教育におけるコンピュータの活用

三波 千穂美

- テクニカルコミュニケーション
- サイエンスコミュニケーション
- 文書リテラシー

辻 慶太

- シソーラスの自動構築
- レファレンスサービス
- 図書推薦システム

歳森 敦

- 選択行動モデル
- 選好意識の解明
- 地域施設計画

長谷川 秀彦

- データサイエンス
- ハイパフォーマンスコンピューティング
- 数値線形代数

松林 麻実子

- 情報行動
- メディア分析
- コミュニケーション

横山 幹子

- 知識の確実性
- 知識の共有
- 言語と思考

知識情報システム主専攻

宇陀 則彦

- 電子図書館
- 情報資源共有
- 知識現象の解明

佐藤 哲司

- 情報アクセス
- 知識画像とコミュニティ分析
- コンテンツ工学

関 洋平

- 情報アクセス
- 自然言語処理
- コミュニケーション支援

手塚 太郎

- 機械学習
- 信号処理

BARYSHEV EDUARD

- 国際関係史
- 比較社会学
- アーカイブズ学

松本 紳

- 計算物理
- サイエントフィックビジュアルイゼーション

緑川 信之

- 知識の組織化
- 知識資源の組織化
- 分類

若林 啓

- 統計的機械学習
- 対話システム
- ソーシャルメディア解析

阪口 哲男

- 迷惑メール対策技術
- 次世代のインターネット利用技術
- 情報の蓄積と共有を推進するシステム

鈴木 伸崇

- XML
- 構造化文書
- アルゴリズム

高久 雅生

- 情報行動
- 電子図書館
- 情報検索

時井 真紀

- 計算物理
- 計算機シミュレーション
- 情報表現

松村 敦

- Web 情報システム
- 情報検索インターフェース
- 絵本の推薦

水嶋 英治

- 博物館学
- 博物館情報学
- デジタルアーカイブ

森継 修一

- 数式処理システム
- アルゴリズム
- 数学的知識

落合 陽一

森嶋 厚行

情報メディア創成学類からの協力教員

情報資源経営主専攻

池内 淳

- 公共図書館政策
- 図書館評価
- ウェブの計量分析

小泉 公乃

- 図書館の経営戦略と組織
- パブリックガバナンスと公共図書館
- 図書館のコレクション評価

辻 泰明

- 映像メディア
- 映像アーカイブ
- 映像コンテンツのインターネット配信

松本 浩一

- 人文学の資料
- 資料のデータベース化
- 中国文献学

LO, Patrick

- 国際比較図書館学
- 音楽図書館学
- 図書館アウトリーチおよび広報

石井 夏生利

- プライバシー
- 個人情報保護
- 情報法

白井 哲哉

- アーカイブズ学
- 図書館地域資料
- 日本地方史

呑海 沙織

- 図書館文化史
- メディア史
- 知識情報基盤

溝上 智恵子

- 大学教育
- 教育政策
- 生涯学習論

綿坂 豊昭

- 日本の図書文化
- 江戸の書籍文化
- 和歌・連歌・俳諧

逸村 裕

- 学術情報流通
- 情報利用行動
- 大学図書館

鈴木 佳苗

- 児童青少年の読書
- メディア利用の影響
- メディア教育

原 淳之

- ヨーロッパの図書館
- 図書館文化史
- 図書館の国際比較

村井 麻衣子

- 知的財産法
- 著作権法
- 著作権の制限規定

大庭 一郎

- 情報サービス (レファレンスサービス)
- 公共図書館
- 図書館職員

田村 肇

- 経済分析
- 統計学
- コンピュータによるシミュレーション

平久江 祐司

- 学校図書館経営
- 学校図書館利用指導
- 情報リテラシー教育

吉田 右子

- 公共図書館論
- 生涯学習
- 図書館史

入試

大学説明会は2017年8月5日です
実際の大学を知るにはこれが一番。大学のことを知れば勉強意欲もわいてくる。

一般入試

大学入試センター試験と個別学力検査に基づく選抜（分離・分割方式）
募集人員 前期日程50名 後期日程15名

前期日程はオールラウンドな人向け

選択科目（地歴・公民・理科）と数学、外国語、センター試験。数学は数Ⅱと数Ⅲでも受験できる。

後期日程は広い視野と独創性を重視

センター試験と小論文。小論文で自分の考え方をしっかりまとめるのがポイント。

推薦入試

高等学校長の推薦に基づく選抜
募集人員 30名

論理的思考力とコミュニケーション能力

小論文では、論理的に考え、それをきちんと表現できるかが重要。
面接では自分の考えをはっきり伝えること、説得力がポイント。

AC入試

自己推薦に基づく選抜
募集人員 5名

自分自身の課題でトライ

自分で見つけた課題に自ら取り組み、その成果を自己推薦書として提示。
未知の課題を発見し、解決する能力をどれだけアピールできるかがポイント。

国際バカロレア特別入試

提出書類と面接・口述試験による選抜
募集人員 若干名

主体的に学ぶ意欲

主体的に学ぶ意欲のアピールと論理的思考やコミュニケーション能力がポイント。

私費外国人留学生入試

日本留学試験とTOEFL、小論文、面接による選抜
募集人員 若干名

知識と情報について学ぶ意欲と日本語能力

小論文は日本語で論理的に表現できるかがポイント。
面接には知識と情報について学びたいという意欲をもって臨むことが大切。

日付は2017年4月から2018年3月の間

試 験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	入 試 科 目	配 点
AC入試	5名	8月	10月	10月	第一次…書類選考、第二次…面接（募集要項は6月公表予定）	－
国際バカロレア特別入試	若干名	8月	10月	10月	第一次…書類選考、第二次…面接（募集要項は6月公表予定）	－
推薦入試	30名	11月	11月	12月	小論文と面接	－
大学入試センター試験	－	－	1月	－	国語 国語	200
					数学 数Ⅰ・数Ⅱ 数Ⅲ・数Ⅳ、簿、情報から1	200
					外国語 英（リスニングテスト含む）、独、仏、中、韓から1	200
					① 地歴 世Ⅰ、世Ⅱ、日Ⅰ、日Ⅱ、地理Ⅰ、地理Ⅱから1 公民 現社、倫、政経、倫・政経から1	100 100
					理科 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または物理、化学、生物、地学から1 〔6教科7～8科目〕	100
					② 地歴 世Ⅰ、世Ⅱ、日Ⅰ、日Ⅱ、地理Ⅰ、地理Ⅱ } から1 公民 現社、倫、政経、倫・政経 } 理科 物理、化学、生物、地学から2 〔5教科7科目〕	100 200
個別学力検査 前期日程	50名	1月頃	2月	3月	数学 数Ⅱ・数Ⅲ、数Ⅳ・数Ⅴ、数Ⅵ・数Ⅶ、数Ⅷから1	400
					外国語 英、独、仏から1（事前選択）	400
					地歴 世Ⅱ、日Ⅱ、地理Ⅱから1 公民 倫 理科 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 } 1教科選択 （事前選択）	200
個別学力検査 後期日程	15名	1月頃	3月	3月	小論文	200
私費外国人 留学生入試	若干名	1月頃	2月	3月	日本留学試験（文科系または理科系）、TOEFL、小論文、 面接	－
3年次編入学	10名	6月	7月	7月	面接・口述試験（募集要項は4月公表予定）	－

詳細は必ず「入学者選抜要項」及び「学生募集要項」（2017年9月公表予定）を参照してください。大学入試センター試験においては、①または②を選択してください。

問い合わせ先 筑波大学 教育推進部 入試課 電話 029-853-6007

進路

■「自分にマッチ」したフィールドを！

知識情報・図書館学類の魅力は、文理融合型カリキュラムによって、知識と情報、人間、社会に関する基礎的な知識と技術を広く学びながら、自分が深めたいと思う専門領域を見つけられるところにあります。基礎教育を重視したカリキュラムは、将来、多様な分野で活躍できる下地をつくります。三つの主専攻ではそれぞれ専門的な知識と技術を修得することができます。大学4年間を通じて、知識情報にかかわる広大な世界に触れることは、みなさんの可能性を広げることになるでしょう。知識情報・図書館学類では、隠された自分の可能性を発見し、「自分にマッチ」したフィールドにたどり着くことができます。

■進学

本学はもとより、他大学を含めて20～30%ほどの卒業生が大学院に進学しています。知識情報・図書館学類の教員が所属している大学院として、2年間の博士前期課程（修士課程）と3年間の博士後期課程（博士課程）からなる図書館情報メディア研究科があります。図書館情報メディア研究科には推薦入学の制度があるので、学類での成績が優秀ならば早い時期から自分の進路を定めることもできます。いろいろな専門分野を学んできた多数の大学院生とともに切磋琢磨し、より高度な知識と技術の修得、先端的な研究を行います。こうして身につけた能力を活かして、博士前期課程

修了後にはより高度な専門性を必要とする職業に就くことができます。さらに博士後期課程へ進み、大学教員や研究者をめざす道もあります。また、図書館情報メディア研究科では夜間や土曜日に学習・研究ができるように、東京キャンパス文京校舎に東京サテライトを設けていますので、社会人として仕事をしながら大学院で研究を続けることもできます。

■資格取得

将来へのきっかけとして、大学在学中に資格取得を考えてみるのもよいでしょう。資格取得はスキルアップにもなりすし、自分への自信にもつながります。将来、どのような職に就いても、「知識」と「経験」はかならず力になります。

知識情報・図書館学類では司書資格、司書教諭資格、教員免許状が取得できます。司書教諭資格は、司書教諭科目を履修し教員免許状を取得することで取得できます。教員免許状は、中学校教諭一種免許状（社会・数学）と高等学校教諭一種免許状（公民・数学・情報）が取得できます。定められた科目を履習して、JTCAに申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定を受けることもできます。

また、自分の可能性を広げるため、TOEIC（Test of English for International Communication）や TOEFL（Test of English as a Foreign Language）、基本情報技術者試験、経営学検定試験（初級）などの受験を勧めています。

春日エリアのキャリア相談室より

キャリアアドバイザー 神村 孝子

2012年4月より毎週相談業務を行っています。相談内容は就職活動や進路に限らず、「将来を意識した学生生活についてどう過ごしたいか」など多岐にわたり、大学1年生から大学院生まで幅広く利用していただいています。個人相談以外にも「オープン相談」など、学生が少人数で気軽に情報交換できる機会も作っています。進路に不安はつきものですが、同じ状況の人と話すことでほっとできる場になっているようです。加えて、「大学職員さんに話を聞こう」と称して、図書館職員や事務職員として活躍する方を招いて懇談し、実際の仕事を具体的にイメージするための試みも行っています。また、「進路説明会」では「企業」「公務員」「大学院進学」に進む4年生から、自分の進路決定までの体験を学生目線で語っていただいています。参加者からは「体験を聞くことで、自分がこれからすべきことが明確になった」などの感想が寄せられています。

私自身、就職課の就活アドバイザーも兼務していますので、就職課主催のイベント等の情報提供もしています。主なイベントは約700社の企業人事担当者と卒業生の社員が来学し身近に質疑応答ができる「学内企業説明会」や面接対策などのための「就活フォローアップ講座」など実践に役立つものが数多くあります。イベントを通じて他学類の人や様々な社会人と接することは、進路への意識を高めるよいきっかけになると思います。筑波大学には、4年間の中でたくさんの機会を活かして自分の世界を広げている環境があります。その環境を存分に活かすことで、変化に強い自分自身を築いていただきたいと思います。今を考えることは未来を考えることにつながります。皆さん、春日エリアのキャリア相談室にも気軽にいらしてください。

■就職

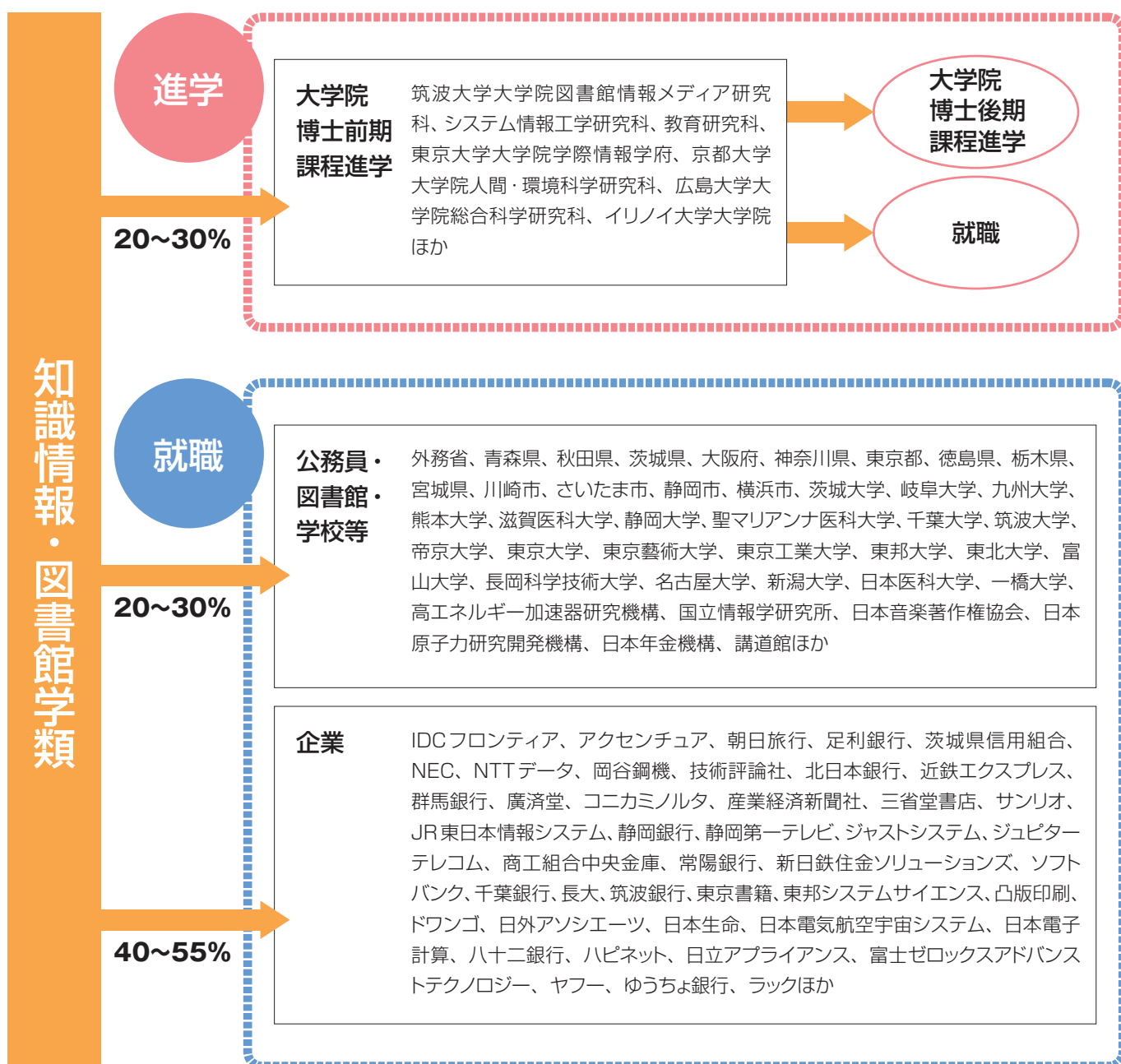
知識情報・図書館学類の卒業生は、さまざまな分野で活躍しています。下図のように、就職先は、大きく「公務員・図書館・学校等」と「企業」に分けることができます。「公務員・図書館・学校等」では出身都道府県に就職する学生も少なくありません。また、企業への就職では、出版社、書店・取次、IT関連企業、インターネット関連企業、通信関連企業、銀行、サービス業などがあります。

今後ますます、知識の本質を理解したエンジニアや企画経営能力を有する開発者など、多様な視点をもった人材が必要とされ、実際にそうした人材を輩出しています。

■就職支援

知識情報・図書館学類では、きめ細やかな就職支援を行っています。学生の個別相談に対応するため、独自にキャリアアドバイザー（週1日）を配置し、気軽に相談できるようにしています。企業系志望の学生のためには、進路説明会や学生間で情報を共有するための「進路情報カフェ」などを実施しています。公務員・図書館志望の学生のためには、公務員採用試験に向けて独自の教養試験対策を行っています。また、全学レベルでのキャリア支援活動も受けることができます。

卒業生の主な進路





学生生活Q&A

Q 学類のホームページは？

A 学類のホームページは、<http://klis.tsukuba.ac.jp/> です。学生生活に関するさまざまな情報を提供していますので、アクセスしてみてください。

Q 学生宿舎はありますか？

A 春日エリア内に春日学生宿舎があり、春日エリアの新入生は優先的に入居できます。全室個室、ベッド・机・椅子つきで、LANの設備もあります。宿舎費（寄宿料＋共益費）は、月額19,615円です（2017年4月から）。これにプラスして個室電気料が2,000円程度（個人使用分）、コインランドリー代1回100円、シャワー代1回100円がかかります。また、徒歩15分～20分のところに、追越学生宿舎、平砂学生宿舎、Global Villageがあります。



Q アパートは紹介してもらえますか？

A キャンパスの近くには学生向けのアパートがたくさんあります。台所と6畳の1Kで3～5万円程度で、徒歩や自転車で通える範囲から探すことができます。情報の提供は学生生活課で行っていますが、ほかに、地元ミニコミ誌が毎年秋に最新のアパート情報を掲載した小冊子を出しています。

Q 入学金と授業料は？

A 2017年度の場合、入学金は282,000円、授業料は年間535,800円です。なお、入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

Q 授業料免除の制度はありますか？

A 全額免除・半額免除・1/3免除があります。2016年度知識情報・図書館学類の場合、免除者は55名でした。

Q どんな奨学金がありますか？

A 日本学生支援機構による奨学金制度には、無利息の第一種奨学金と利息つきの第二種奨学金があります。

2016年度入学者の場合（月額）

●第一種奨学金（希望額を選択）

〔自宅通学者〕 30,000円、45,000円

〔自宅外通学者〕 30,000円、51,000円

●第二種奨学金（希望額を選択）

30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円

その他、筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、地方自治体や財団法人による各種奨学金制度もあります。

Q 奨学金の貸与を受けている人はどのくらい？

A 2016年度知識情報・図書館学類の場合、日本学生支援機構の第一種奨学生は73名、第二種奨学生は67名でした。

Q 授業時間はどのくらいですか？

A 1時限は75分で、休憩時間が15分です。昼休みは50分あります。1時限目は8:40に始まります。

Q 授業のある日は？

A 春学期（4月1日～9月30日）、秋学期（10月1日～3月31日）、それぞれに3つのモジュール（A、B、C）があり、この期間の月曜日から金曜日に授業があります。週2時限で10週間の授業に試験またはレポートが基本ですが、5週授業（週4時限）、15週授業（週1時限）、30週授業（週1時限）の科目もあります。土曜や休暇中の集中授業もあります。夏休みは8月中旬から9月末まで、冬休みは12月下旬から1月上旬、春休みは2月中旬から4月上旬までです。

Q 休日に図書館や実習室が使えますか？

A 図書館情報学図書館が8:30から22:00（土日祝10:00から18:00）、春日エリアの実習室が8:00から22:00で、休業期間中は短縮されます。春日エリア外の図書館や実習室も利用できます。ただし、授業のため利用できない場合があります。なお、コンピュータシステムは基本的に年中無休でいつでも利用できます。

Q パソコンは必要ですか？

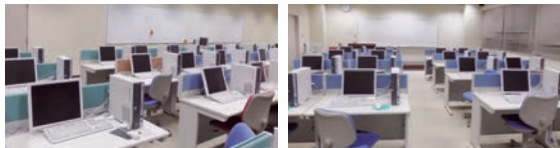
A 春日エリアには、約230台のパソコンが設置されており、自由に使うことができます。ただ、多くの学類生は自分自身のパソコンを持っているようです。春日エリアのすべての教室で無線LANが使い、春日学生宿舎のすべての個室にも無線LAN（有線使用も可）があります。

Q 個人のWWWページをつくれますか？

A 全員が電子メールアドレスをもち、個人のWWWページを公開できます。

Q どんなコンピュータが使えますか？

A 学生全員が使うコンピュータシステムではWindowsとLinuxの両方が使えます。



Q 健康相談はできますか？

A 保健管理センターで、けがや病気などに対応できる体制になっています。学生生活で生じた不安や悩みなどは、専門のカウンセラーに相談できます。また、スチューデントプラザと春日エリアには総合相談窓口があり、気軽に相談できるようになっています。

Q スポーツや文化活動の施設は？

A 筑波大学にはさまざまな施設がありますが、春日エリアには多目的グラウンド、体育館、テニスコート（5面）、弓道場などのスポーツ施設があります。また文化系サークルのスペースとして共用室や和室があります。

Q どのくらいのサークルが活動していますか？

A 筑波大学には100をこえる課外活動団体があります。

Q 学食や売店はありますか？

A 春日エリア内には学食と売店（書籍・文房具・菓子類）があります。

Q 大学構内の移動は？

A 路線バスを使って大学中央や他エリアに移動できます（平日8:00～21:00は10分間隔）。学生は年間8,600円の定期券で、つくばセンターから大学構内までの路線バスをいつでも自由に乗り降りできます。また、自転車で移動する学生も大勢います。

Q 新入生の時間割は？

A たとえば1年次の入学当初はこんな時間割になります。

	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
月	総合科目Ⅱ	第2外国語	英語			
火	図書館概論	知識情報概論	情報基礎			
水	情報数学	リソグラフィ				
木	情報基礎実習	第2外国語	英語			
金		体育		英語		

Q 交通の便は良いですか？

A 春日エリアから徒歩10分のかづさ駅からは、つくばエクスプレスで秋葉原まで45分、高速バスで東京まで約90分から110分です。また、羽田空港、成田空港へのバスもあり、羽田空港からは約100分、成田空港からは約60分です。

Q 近くで買い物ができますか？

A 春日エリアから徒歩10分のかづさセンター（つくば駅）と3キロほどの研究学園には、それぞれ大きなショッピングセンターがあります。さらにコンビニエンスストア、書店、スーパー、百貨店、家電量販店なども近くにあり、買い物にはとても便利です。



Q 近くに文化施設はありますか？

A 春日エリアから徒歩数分のところにプラネタリウムや県立美術館、市立図書館などがあります。



Q 新入生の1日は？

A 新入生はこんな1日を過ごしています。

- 7:00 目覚まし時計が鳴る。まだ眠いが二度寝が怖いので起床
- 7:20 朝食は簡素に。朝から料理するのは無理
- 8:30 宿舎から教室までは3分ほどだが、余裕をもつにはこのくらいに出ないと……
- 8:40 1、2時限、情報基礎実習
- 10:40 今日の実習項目終了。早く終わったら帰ってもよいのがこの科目のよいところだ
- 11:30 昼食。今日は友人と学食で食べよう
- 12:15 3時限目は中国語。外国語と体育、そして総合科目Ⅲは別のエリアで受けるので、自転車は手放せない
- 13:45 4時限目、英語
- 15:15 宿舎に帰り着く。今日の5、6時限目は空き時間。英語の宿題をしておこう、英作文は何について書こうかなあ
- 17:15 サークルに行く前に風呂に入っておこう
- 18:15 さて、サークルだ。もうすぐ公演だからがんばらないと
- 20:30 今日はいつもより早く終了。帰る前に買い物だ
- 21:15 買い物を終えて帰宅
- 22:40 宿舎の仲間と話をしながら夕食
- 23:30 寝る前にちょっとだけパソコンを立ち上げてブログを更新。宿舎にLAN回線が通っているので便利
- 0:00 就寝。明日も1日ががんばろう……

3年次編入

1. 編入について

知識情報・図書館学類では、次の2種類の編入生を受け入れたいと考えています。

- ①類似した領域から来て、そこで習得した知識・技術を深める
- ②異なる領域から来て、そこで習得した知識・技術をもとに新しい道をめざす

①のタイプは、たとえば短期大学で司書資格科目を履修したり、高等専門学校で情報工学を専攻したりするうちに、より専門的に学びたいと考えるようになった人たちです。②のタイプは、たとえば法律学や化学を学んで、その知識を知識情報学（図書館情報学）のなかで活かして法律図書館や化学情報といった今までとは異なる領域について学びたいと考えるようになった人たち、あるいは情報工学を技術的側面から学んできたのちに社会的側面からも学びたいと考えるようになった人たちなどです。

2. 入学試験

入学試験では、学習計画書を提出していただき、その内容について30分程度の面接・口述試験を行います。

学習計画書には、自分は①のタイプなのか、あるいは②のタイプなのかをよく考えて、2年間の大学生活でどのようなことを学びたいのかをまとめてください。学習計画書を補足するための資料を添付してもかまいません。

面接・口述試験では、10分程度でこれまでの学習内容、志望の動機、これからの学習計画などについて説明していただきます。試験時に説明用資料を配布することもできます。

編入学試験では、その時点での学習計画をきちんと説明できることが重要で、入学後にその学習計画を変更してもかまいません。

3. 入学

合格発表後、8月末の土曜午後に東京キャンパスで合格者向けのガイダンスを実施します。カリキュラムや単位認定についての概要を説明したうえで、クラス担任予定者や教育課程の教員が、合格者ごとに単位認定の見通しの試算や主専攻選択について個別面談を行います。例年、ガイダンスでの単位認定見通しを受けて、在籍校での履修計画を見直す人が多く、結果的に編入学時の認定や入学後の履修がスムーズに進むようです。

卒業に必要な単位数の約半分を、編入学時までの学修内容に応じて単位認定します。これまでの実績では55単位～69単位、平均すると約63単位が認定されています。卒業に必要な単位数は125.5単位ですから、編入学後63単位前後の履修が必要になります。1年次入学の標準的な履修プランでは1・2年次で約80単位、3・4年次では約50単位となっています。

知識情報・図書館学類生としてかならず学んでほしい科目は単位認定の対象外なので、1・2年次生に混ざって受講する必要があります。この場合、同じ時間帯に開講される3・4年次向けの専門科目は4年次に受講することになります。

編入学者は3年次生として、三つある主専攻のひとつに所属し、1年次からの学生に混ざって主専攻実習や専門科目を学びます。卒業研究の研究室配属は3年次秋に行います。

背景が異なるさまざまな編入生を受け入れるため、クラス担任を中心に、学習計画の指導に力を入れることになっています。計画的に履修すれば司書資格の取得は可能ですが、教員免許状を2年間で取得するのは不可能です。

4. 説明会

2017年4月22日（土）13:30から春日エリアの情報メディアユニオンにおいて編入説明会を行います。

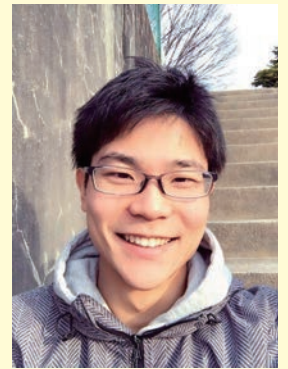
先輩の声

私の知識情報・図書館学類の印象は「自由」です。知識情報・図書館学類では、文理融合型カリキュラムであるため、幅広い種類の授業を受講することができ、自分の興味に合わせて学ぶことができます。また、筑波大学は規模的にも大きく、講義数、食堂など公共物の数、サークルの数などなど、日常において自分の選択する可能性が大きく広がりました。企業関連のイベントや講義などもあるため、自分のなりたい職種に絞った就職活動も行えています。

共に学ぶ編入生達は数ある大学の中から、この知識情報・図書館学類を希望して編入してきているため個性的な人が多く、その人のこれまでの話や興味のあることなど、今までの生活では思いもしなかったようなことを聞けて、日々刺激を受けています。また、グループワークで発表を行ったり制作したりすることもあるので、内部生との繋がりも増え、そこから他学類の人たちと交流が生まれるなど、入学して時間が経つにつれてどんどん友人は増えていくことになるでしょう。

しかし、これらに付随してくるのは「能動的な気持ち」があるかどうかだと思っています。自由に取捨選択ができる分、現状に満足して消極的になってしまえば得るものはありません。面白いことがやりたい! 色々な人と関わって楽しいことがしたい! という気持ちを持ち続けていれば、おのずと有益な情報を手に入れることができますし、情報量に関して筑波大学は最高の環境だと思います。

私はたまに「大学生活を満喫してるね」と言われることがありますが、筑波大学にはまだまだたくさんの可能性が眠っていると感じます。ぜひ、筑波大学で自分の可能性を一杯広げに来てください。



長屋 健
NAGAYA Takeru
(高専出身)

知識情報システム主専攻



香川 詩保里
KAGAWA Shiori
(短大出身)

情報資源経営主専攻

知識情報・図書館学類に編入して、もうすぐ一年になりますが、毎日があっという間に過ぎ去った気がします。編入してから自分の経験についてお話ししたいと思います。

私は短大出身で、短大一年の時に図書館に興味をもち、図書館情報学を学んで司書資格を取得したいと考え、編入学しました。

知識情報・図書館学類は、扱う学問領域の広さや編入生を広く受け入れる懐の広さが特徴的です。同期の3編生には、高専、短大、他の4年制大学の出身者がいて、今まで勉強してきた領域もさまざまです。得意分野の異なる個性豊かな仲間との存在は、頼もしくあり、よい刺激にもなります。

履修する授業の多さや、不得意分野の勉強など、編入して大変なこともあります。私の場合は、文系出身でプログラミング初心者だったため、最初は全く分からず辛かったです。しかし、プログラミングが得意な高専出身の同期に分からないことを教えてもらいながら、少しずつ学んでいます。苦手なことでも、諦めない姿勢を崩さなければ必ず乗り越えられますし、新しい知識が身につくと段々と面白く思えてきます。

大変なことばかりでなく、楽しいこともたくさんあります。編入生でも部活やサークル活動に所属したりアルバイトをしている人も多くいます。私自身、部活で趣味を楽しみ、時間を見つけてアルバイトをしています。部活を通じて他学類や他学年の知り合いが増え、アルバイトは大学とは違った学びや発見があり、充実した生活を送っています。

受験生のみなさん、ぜひ筑波大学へお越しください。きっとみなさんの得意を生かしつつ、素晴らしい仲間と共に学びが得られると思います。

3年次編入のためのQ&A



Q. 編入学した人の出身は?

A. 年度によって異なりますが、高等専門学校と短期大学出身者が多いようです。高専での学科は、情報工学科、電子情報工学科のみならず、電子制御工学科、電子工学科、電気工学科、機械工学科、環境都市工学科まで多彩です。2017年度の場合、高専3名、短大4名、大学7名、専門学校1名です(定員10名)。

Q. 学生宿舎には入れますか?

A. ほとんどの人は最寄りの春日宿舎に入れますが、時として追越宿舎(徒歩約15分)が割り当てられることもあります。

Q. サークルに入れますか?

A. 多くの人がサークルに入っています。

Q. 知り合いは多くできますか?

A. 入学直後の2日間連続のオリエンテーションなど、編入生同士が出会う機会が多く、毎年仲良くやっているようです。また、1・2年次生と同じ科目を履修するため、学年を越えた知り合いも沢山できます。

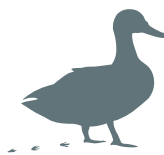
Q. 他学類・他学群の授業は取れますか?

A. 可能です。ただし、短期間に多くの科目を取らなければならない編入生にとっては、現実にはかなり厳しいと思われます。

Q. 文系学生はプログラミングや数学が大変?

A. 大変です。ただし、理系か文系かで決まるのではなく、個人のやる気に依存します。数学もプログラミングも専門家を育てるためではなく、どのような分野でも必要な数学的な考え方、論理的思考力を養うための科目となっています。

先輩から



佐藤 千尋 SATO Chihito

知識情報・図書館学類1年

私は、大学というのは社会と戦う装備を固める場だと考えています。入学までに培った学力や常識を骨組みとして、知識や学歴、世渡りスキルなど、より大きな人間になる材料を集め研ぎ澄まされるのが大学生活なのです。安定した人間になるためには、いろんな要素をバランスよく集める必要があります。遊びだけではだめだし、勉強だけというのも勿体ないです。

サークルや学生団体で身につく気遣いや管理力は、社会に出てから他人と関わる際に役立つでしょう。なにより、気の合う仲間と成果を出すことは楽しいものです。団体に加わるのに大変な勇気が必要な人もいますが、きっと後々の人生を支えてくれる経験につながります。まとまった時間を好きなことに充てられるのは、大学生活が最後でしょう。

対して大学での勉強は、結局は自分との戦いです。不思議なことに、大学生になると高校まで当たり前だった予習・復習や先生の話に集中することができなくなっていくます。また、この学類の授業は知識論からプログラミングまで多岐にわたり、自分の興味とは異なる分野に触れることもあります。何をしたいのか、迷い始める人もいるでしょう。困ったら、熱心な受験期に抱いていた目標を思い出してみてください。全くその通りにはいかなくとも、自分がどんなふうに勉強をすべきか考える手掛かりになるはずです。

大学では誰も自分の面倒を見てくれません。勉強を疎かにせず、かつ体を壊さないよう、自分のキャパシティと向き合う必要があります。賢く時間を使い、自分で自分を育てていきましょう。

久保川 一良 KUBOKAWA Kazuyoshi

知識情報・図書館学類1年

知識情報・図書館学類について外部の方に伝えるのはなかなか難しいことです。正直申し上げると、もし私がここに四年間在籍していたとしても他人にきちんと伝え十分な理解を促すのは難しいと思います。なぜなら私たちが学んでいることは一定の形を持たず、また常に増え続けているからです。そして実際のところその本質たるものは、目に見える物でも、耳に聞こえる物でも、舌で感じる物でも、肌で触れる物でもありませんから、人間の感覚以外でどうにか捉えていく努力をせねばなりません。これが情報を学ぶということです。そうしてどうにか捕まえたそれは、その人の内にある限り知識と呼ばれます。いつでもどこでも取り出して使いこなし、そのたびに使い勝手の良くなっていく道具です。そしてその持てる数を際限なく増やし磨きをかけていく一方で、今度はそれらを誰かに手渡していく必要が生じます。けれどもその道具はどこまでいってもその人の内にしか存在しえないものです。しかし、その問題は紀元前四千年頃に文字の発明によって解決の糸口を得ました。偉大なる先人たちは、知識そのものを記述することは出来ないが、「知識の設計図」とも言える物、つまりmediumを残すことは可能だと気づいたのでした。これこそが図書館の始まりであり、今もまたこれからもそうあり続けると私は考えています。

本が好き、図書館が好き、ただそれだけでも十分ではありますが、情報とは何なのか、知識とは、図書館とは一体なんぞやという疑問を改めて持ち探求していく同志たちを心待ちにしております。



矢澤 愛実 YAZAWA Ami

知識情報・図書館学類1年

「図書館に住みたい」幼い頃にそう思ったことがあります。大好きな本に囲まれて生活するのはどんなに幸せだろうと。「知識情報・図書館学類」、初めてこの学類名を聞いたとき、私は運命の出会いだと感じました。そして、この学類で学べる内容を知ったとき、また衝撃を受けました。図書館に関することだけではなく、プログラミングや哲学、統計、法制度といった様々な分野の授業も多く履修するのです。この学類の特長的なところは、文理融合型であり、得意分野の異なる人たちが混在しているところです。今までは興味のなかった分野にも関心を持つようになり、自分の知識の幅もどんどん広がっていきます。また、自分の好きなこと、得意なことについて発信することは、自信の確立にもつながります。私は、この学類で様々な授業を履修するうちに、もっと知りたいと思ったことがたくさん見つかり、自分の将来にどのように役立つのかを考えると夢が膨らみます。

大学は、知りたいと思ったことをさらに深く学ぶことができる場所です。図書館情報学図書館には春日ラーニングコモンズという学習するための共有スペースもあり、自分の学習を手助けしてくれる環境が整っています。また、初めての一人暮らしやサークル活動など、大学生活では新しく経験することたくさんあります。皆さんは、どのようなキャンパスライフを思い描きますか。目標に向かって突き進む強い意志があれば、自分次第でどんなことでも成し遂げられると思います。この学類はきっとあなたの道を明るく照らしてくれることでしょう。



佐々木 琢磨 SASAKI Takuma

(株) アイヴィス 筑波大学図書館情報専門学群卒業

私は高校の頃に地元の高等学校文化連盟の図書研究大会に参加するなどの活動を通し、将来的にも図書館や司書に携わることがしたいと思い、図書館情報専門学群（現在の知識情報・図書館学類）に入学しました。

しかし、入学して図書館や司書に関係する周辺分野、特に資料のデジタル化や、蔵書管理検索システムの仕組み、運用管理の方法といった情報科学の分野の学習を通し、物事の仕組みを考え、実際に動かしてみることが好き、という自分を発見することができました。もちろん、文系として入学したこともあり、最初は理数系の講義などは苦手でしたが、ある時は図書館に籠って自主的に勉強し、またある時は別の学類も含めて友人や先輩の力を借りたりして、いつの間にか理数系の領域が好きになっていきました。このように、本学類では思想や現実の現象も含めて体系的に理解を深められる環境が整っています。

また、学術面だけではなく、サークルも充実しており、充実した学生生活を過ごすことができます。

その後、大学院に進学し、現実の問題を系統的に改善や解消するアプローチについてより理解と興味が深まり、大規模システムに関わるべく就職を目指しました。そして、現在は、自分が目指した通りに社会を支える基盤システムの保守開発、運用管理業務に携わることができています。入学した時点とは結果的には異なった道に進んではいますが、自然な流れで自分が本当にやりたかったことを見つけることができたと感じます。

時間と契機、機会を十分に生かし、素敵な学生生活を送ってください。

村野 亜子 Murano Ako

慶應義塾大学理工学メディアセンター 筑波大学知識情報・図書館学類卒業

私がこの学類を卒業して、自分に残ったものは何かを考えてみました。

まず、「幅広い好奇心」を身に付けることができたと思います。一口に「図書館情報学」と言っても、図書館学、社会学、哲学、法学、統計学、情報工学などの様々な分野が含まれているため、必修として学ばなければならないことが多岐に渡っています。さらに、人文学、教育学、理工学、芸術学、体育学など他学類の学問に触れる機会もたくさんあります。また、広く浅い知識になるのではなく、4年次の卒業研究ではひとつテーマに1年かけてじっくりと取り組むことができます。つまり、「図書館」という言葉だけに惹かれていて視野を広げることができますし、なんとなくこの学類が気になるけれど何に興味があるのかよくわからない方は自分の琴線に触れるような分野にきっと出会えると思います。

そして何よりも、大学生活を通してできた「人とのつながり」が今の私を支えています。この学類は他大学にあまり無い文理融合型カリキュラムの下で学べるということもあり、出身地、文系理系、興味関心のまったく異なるたくさんの人に出会えます。学生と教員の距離がとても近いため、各分野の権威と言われる先生方とも親密な関係を築くことができると感じます。こうしてできた人とのつながりは、現在の仕事や私生活の様々な場面で活かされています。

皆さんが「幅広い好奇心」と「人とのつながり」を大切に、充実した大学生活を送れることを心から願っています。



前田 仁 MAEDA Hitoshi

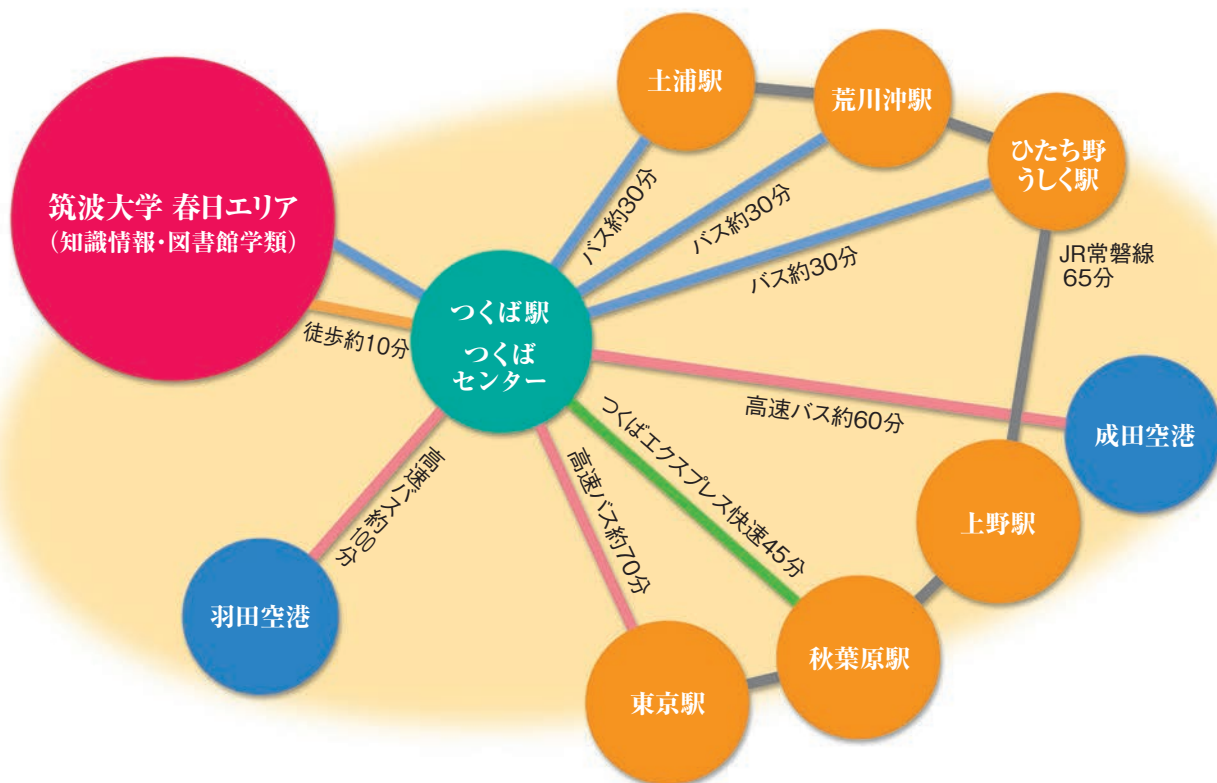
図書館情報メディア研究科博士前期課程 筑波大学知識情報・図書館学類卒業

このパンフレットを読んでいる皆さんの多くは、知識情報・図書館学類に入学した人、あるいは受験して入学したいと考えている人だと思います。志望理由は「図書館について勉強して司書になりたい」「プログラミングのスキルを身につけて将来に活かしたい」など十人十色でしょう。しかし、入学前に知ることができる情報は限られています。実際に入学してみて、「考えていたよりもたくさんのことができた」という声も、「思っていたのと違った…」という声も、僕の周囲で出ていました。

ただ一つ言えるのは、自分の行動次第で思ったより色々な経験が出来る、ということです。学類の授業では知識や情報に関する幅広い内容を学ぶことができます。筑波大学の他学類で開講されている授業を履修して、他の分野について見識を広めることもできます。アルバイトやサークル、大学内の学生組織やその他趣味の活動など、4年間を通して多くの経験をすることもできます。学類名に掲げられる「知識」

「情報」「図書館」に関する学びは、みなさんが大学で経験することを咀嚼し吸収する際の基礎となることでしょう。

大学生活で得た全ての経験が、自分という人間の土台を作っていくことになります。それは就職活動の時に武器になるものであり、卒業研究をする際の支えになるものであり、卒業後生きていく上での糧になるものです。どうかみなさんが入学後に、「自分はこうでなければダメなんだ!」という一つの考えに固執せずに、たくさんの「知識」を取り入れ、考え、広い見識を持つ人に成長してくれることを期待しています。



徒歩

「つくば駅」(A1、A2出口)または「つくばセンター」から徒歩約10分です。

鉄道

秋葉原駅からつくばエクスプレス 快速に乗ると45分で「つくば駅」に到着します。

JR常磐線 ひたち野うしく駅、荒川沖駅、または土浦駅で下車し、「つくばセンター」行きもしくは「筑波大学中央」行きのバスに乗ると、約30分で「つくばセンター」に到着します。

高速バス

東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「つくばセンター・筑波大学」行きに乗ると、約70分で「つくばセンター」に到着します。

車

常磐道「桜土浦IC」で降り、東大通りを約5.2km北上し、左折して北大通りに入り、2つ目の信号を左折すると「筑波大学春日エリア」に到着します。

飛行機

「つくばセンター」まで、羽田空港からは高速バスで約100分、成田空港からは高速バスで約60分です。



お問い合わせ

〒305-8550 つくば市春日1-2
筑波大学 図書館情報エリア支援室
 TEL:029-859-1110 FAX:029-859-1162

<http://klis.tsukuba.ac.jp/>
 E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

2017年発行



R70
 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

